

# 救急科専門医新規申請 診療実績審査について

日本救急医学会ホームページ (<http://www.jaam.jp/>) の「専門医を取得する」>専門医を取得する(現制度:日本救急医学会)>「新規申請(現制度) 第2次(診療実績)審査」から、下記必要書類をダウンロードし使用してください。

- ・症例入力ファイル(書式第5号) (Excel)
- ・診療実績証明書(書式第5号-補) (PDF)

## 1. 症例入力ファイル(書式第5号) (Excel) への入力の流れ

症例入力ファイル(Excel)には下記に示した3種類のシートがあります。

### ①「記入用1」: 申請者のデータを入力するシート

The screenshot shows the 'Form 1' Excel sheet titled '症例入力用紙 (第1ページ)'. It contains a form with the following fields: '申請者氏名 (区切りのスペース不要) 【例】半藤次郎', 'ふりがな (半角文字は不可) 【例】はんとうじろう', '生年月日 (西暦, 半角数字) 【例】1976 12 24', and '現在の所属病院・科 (館) 【例】某病院・救急救急センター'. A message at the bottom says 'まず、この画面に申請者のデータを正しく入力したあと、記入用2に移ってください'.

「記入用1」のシートの白い枠内に必要事項を入力してください。

### ②「記入用2」: 症例を入力するシート

The screenshot shows the 'Form 2' Excel sheet titled '症例入力用紙 (第2ページ)'. It features a table with columns for '年齢 (才)', '性別', '病名 (できる位「病名」を記入。日本語で記載(漢数字は「,」で区切る。改行は不可)', and '年月日 (西暦)'. The first row contains the example data: '66 男 急性心筋梗塞、心室シャック 2017/7/8 某病'.

「記入用2」のシートの白い枠内に症例を入力してください。

### ③「印刷用」: ①、②の内容から必要なデータが自動的に表示されるシート(入力不要)

The screenshot shows the 'Form 3' Excel sheet titled '診療実績表 A (専門医書式第5号)'. It is a table with columns: '印刷用', '病名', '年月日', '病名', '印刷用', '診療者名', '診療科(部)名', '指導者名', '指導者印'. The first row contains the example data: '01)二次救急搬送', '02)緊急気管挿管(心動停止再発後)'.

「記入用1」「記入用2」のシートへの入力終了したら、「印刷用」シート(書式第5号)を印刷してください。用紙は A4 縦 を選択してください。

印刷した「印刷用」シート(書式第5号)の各症例に指導者自身が捺印してください。

指導者とは、申請時に当該施設に常勤する救急科専門医(救急科専門医が不在の場合は認証資格者)のことをいう。

※必ずしも診療に関する直接の指導者を指すわけではありませんので、ご注意ください。

### <入力時の注意>

- ・フォームの変更(シートの順番及びシート名の変更、行・列の挿入・削除など)は行わない。
- ・無意味なスペースを入力しない。
- ・各シートで「シートの保護の解除」を実行しない。
- ・データをコピー&ペーストした場合、エラーが生じる可能性があるため、直接入力をする。

## 2. 症例入力時の注意点（専門医認定制度 P. 19 参照）

A(必要な手技・処置) 術者として行なった症例	Aa.必修項目	13項目につき5例ずつ、 <b>合計65例</b> を必ず記載する ただし、無効症例や重複による削除があった場合の予備として、各項目6例までの記載は可とする	1例でも欠けていた場合（無効症例・重複による削除も含む）は、症例数不足により不合格となる
	Ab.経験が望ましい項目	<b>合計30例以上</b> を必ず記載する 20項目につき3例ずつ計60例まで記載できる	29例以下（無効症例・重複による削除も含む）は不合格となる
C(必要な症例) 初療あるいは主治医として担当した症例	I.急性疾病	<b>合計20例以上</b> を必ず記載する 10項目につき3例ずつ計30例まで記載できる	左記の規定数を満たし、合計50例以上記載する 49例以下（無効症例・重複による削除も含む）は不合格となる
	II.外因性救急	<b>合計20例以上</b> を必ず記載する 12項目につき3例ずつ計36例まで記載できる	
	III.ショック	<b>5例以上</b> を必ず記載する 10例まで記載できる	
	IV.来院時心肺停止	<b>5例以上</b> を必ず記載する 10例まで記載できる	

### 1) 記載できる症例

診療実績審査において記載できるのは、第1次審査で、救急勤務歴に認められた施設ならびにその期間内（ただし、「申請年3月31日までの10年間」）での症例です。

救急勤務歴審査の結果通知文書に、対象となる施設および期間を記載してあるので、必ず確認の上、入力すること。

※対象外の施設・期間での症例を使用された場合、無効症例として削除されるので、注意すること。

### 2) 重複記載の禁止

A項目内に1患者の症例を複数回用いないこと。

C項目内に1患者の症例を複数回用いないこと。

1患者の症例はA項目内に1回、C項目内に1回しか記載できない。これは申請者や申請年度が違って適用されるので、注意すること。

重複に関しては、専門医認定制度〔P.19〕を参照のこと。

### 3) 配点

症例が規定数を上回った場合は、委員会内規により10点を上限に加点されるので、申請書の記載枠の限度内で、できるだけ多く記載することが望ましい。点数配分については公表していない。

例) Ab項目で30例は加点なし、31例目以上から加点対象。

### 4) 患者IDの記載について

個人情報保護法の施行に伴い患者ID番号の記載を廃止した。ただし、委員会の審査において必要と認められた場合には、実地調査を行うことがある。

### 5) 書式第5号の各症例に指導者印を捺印するのは、指導者が申請者の経験を確認すると共に、その手技を担保することを求めています。虚偽記載を認めた場合、救急科専門医指定施設認定取り消し等の処分が科せられることがございますので、各症例を充分確認した上でのご捺印をお願いいたします。

6) 印刷用ページの記載例

(専門医書式第5号)

**診療実績表 A**

申請者		本郷太郎						
年齢	性	病名	年月日	施設名	施設番号	診療科(部)名	指導者名	指導者印
Aa (必修項目)			(01) 二次救命処置	①	②		③	④
1	1	男 ●●●●●, ■■■	20XX/4/1	本郷医科大学附属病院	0999	救急部	上野 二郎	上野
2	10	女 ●●●●●, ■■■	20XX/5/1	文京総合病院	130002	救命救急センター	神田 花子	神田
3	20	男 ●●●●●, ■■■	20XX/2/5	文京総合病院	130002	救命救急センター	神田 花子	神田
4	30	女 ●●●●●, ■■■	20XX/1/1	本郷医科大学附属病院	0999	救急部	上野 二郎	上野
5	40	男 ●●●●●, ■■■	20XX/8/1	本郷医科大学附属病院	0999	救急部	上野 二郎	上野
予備	50	女 ●●●●●, ■■■	20XX/9/1	本郷医科大学附属病院	0999	救急部	上野 二郎	上野
Aa (必修項目)			(02) 緊急気管挿管(心肺停止例を除く)					
1	2	男 ●●●●●, ■■■	20XX/10/1	本郷医科大学附属病院	0999	救急部	上野 二郎	上野

(注意) 入力は「記入用2」のシートで行ってください。印刷用ページに自動で反映されます。

- ① 施設名  
病院名称の変更があった場合は、現在の名称を入力する。
- ② 施設番号  
「施設番号」については、救急勤務歴審査の結果通知文に記載があるので、確認の上入力する。  
救急科専門医指定施設は認定番号の4桁、非指定施設の場合は6桁の数字です。
- ③ 指導者名  
「指導者名」欄には、申請時に当該施設に常勤する救急科専門医名（救急科専門医が不在の場合は認証資格者名）を入力する。  
※指導者とは、必ずしも診療に関する直接の指導者を指すわけではありませんので、ご注意ください。  
※認証資格者とは、「救急医学に関連する日本医学会分科会」もしくは「その他の救急医学に関連する学会・研究会」の専門医で、日本救急医学会会員であり、本学会に認証資格者として申請し認められた者をいう。
- ④ 指導者印  
印刷後、**指導者自身が申請者の診療実績を確認しつつ症例ごとに捺印**すること。

### 3. 診療実績証明書（書式第5号一補）PDFファイルについて

- 1) 症例入力ファイル（書式第5号）に入力した指導者については、診療実績証明書（書式第5号一補）を必ず提出すること。  
指導者が複数にわたる場合は、指導者ごとに診療実績証明書（書式第5号一補）が必要となる。
- 2) 診療実績証明書（書式第5号一補）の「指導者」欄は、必ず指導者本人が記載内容を確認の上、直筆で署名し、捺印すること。署名、捺印のないものは証明書として認めない。  
指導者とは、申請時に当該施設に常勤する救急科専門医（救急科専門医が不在の場合は認証資格者）のことをいう。  
※指導者とは、必ずしも診療に関する直接の指導者を指すわけではありませんので、ご注意ください。  
※認証資格者とは、「救急医学に関連する日本医学会分科会」もしくは「その他の救急医学に関連する学会・研究会」の専門医で、日本救急医学会会員であり、本学会に認証資格者として申請し認められた者をいう。
- 3) 「施設名」「期間」の欄には、第1次（救急勤務歴）審査で、救急勤務歴に認められた施設ならびにその期間（ただし、「申請年3月31日までの10年間」）を記入すること。  
救急勤務歴審査の結果通知文書に対象となる施設およびその期間を記載しているのので、参照のこと。

### 4. コース参加について

- 1) 下記コースへの参加については加点対象となる  
（ただし、「2.症例入力時の注意点 3）配点」による加点が10点に満たない場合に限る）。
- 2) 参加証明書のコピーを提出すること。  
インストラクター認定証は加点対象外なので提出しないこと。コースに参加した証明書のコピーの提出をお願いします。

**=加点対象となるコースと参加資格（一律1点、上限3点まで）=**

- ・ JATEC は指導者と受講生
- ・ JPTEC は指導者（インストラクター以上）
- ・ ICLS [AHA/ACLS を含む] は指導者（インストラクター以上）

※AHA/ACLS 以外の救急医学に関する国際的標準コースについても指導者（インストラクター以上）としての参加であれば委員会判断で加点対象とする場合がある。

## 5. 提出書類

提出すべきものは以下の通りです。申請書類・メディアは返却いたしません。

- ① 症例入力ファイル（入力済み）を保存したもの（CD-R または USB メモリ）  
※CD-R または USB 本体に、【1. 受験番号 2. 申請者氏名】を記入すること。  
受験番号は同封の救急勤務歴審査結果通知文書の左上もしくは封筒宛名の下に記載
- ② 診療実績証明書「書式第5号一補」の原本1部、およびそのコピー1部  
※「書式5号」（症例入力ファイル）の指導者欄に入力した指導者について、診療実績証明書「書式第5号一補」を必ず提出すること。
- ③ 「書式第5号」（症例入力ファイルの「印刷用シート」を印刷したもの）の原本（指導者が捺印したもの）1部、およびそのコピー1部
- ④ JATEC・JPTEC・ICLS（AHA/ACLSを含む）コース参加証明書のコピー1部  
※ただし、コース参加を実績として申請する場合のみ

### 書類の綴じ方

原本 1部：②+③+④の順にまとめ、左辺上下2箇所をホッチキスでとめること。

コピー 1部：②+③の順で、左辺上下2箇所をホッチキスでとめること。

※専門医認定制度に副本（コピー）11部の提出を求めています。事務所にて対応いたしますので、コピーの同封は1部のみで結構です。

## 6. 提出締切日

### 毎年 5月1日～6月30日 [消印有効]

※その年の第1次（救急勤務歴）審査に合格された方が対象です。

※締切日を過ぎて提出された申請書類は、一切受理せず返却いたしますので、充分ご注意ください。

※書留郵便等、配達記録の残るもののご送付をお願いします。

- 申請内容に虚偽記載を認めた場合は、指導医・専門医制度委員会などで審議し、悪質なものには除名を含む処分が科せられるので、ご注意ください。
- 診療実績の信頼性を担保するため、委員会が選んだ症例について、証明書類（診療記録やカルテ等のコピー）の提出を依頼することがありますので、ご注意ください。
- 第2次（診療実績）審査の結果通知は毎年8月下旬に発送予定です

## 7. 提出先

〒113-0033

東京都文京区本郷 3-3-12 ケイズビルディング 3階

日本救急医学会 専門医新規申請係

TEL：03-5840-9870 FAX：03-5840-9876

**ご注意**※必ずご一読ください。申請に関するよくある質問や注意事項について記載しています。

●救急勤務歴として申請した期間が結果通知の<症例入力の対象となる施設および勤務期間>にない

救急勤務歴証明書（書式第3号）の提出がなかった施設・期間は対象外となっています。また、その他の理由で救急勤務歴に認められなかった施設・期間も対象外となっています。もし、この期間が認められていないのはおかしい等疑義がある場合は、日本救急医学会事務所までご連絡ください。

●指導者とは

診療実績証明書（書式第5号-補）、診療実績表（書式第5号）の「指導者」とは、申請時に当該施設に常勤する救急科専門医（救急科専門医が不在の場合は認証資格者）のことをいう。

※必ずしも診療に関する直接の指導者を指すわけではありませんので、ご注意ください。

例1) A病院の症例を記載した場合、実際に指導してくれたB先生が現在もA病院に勤務していたとしても、B先生が救急科専門医でない場合は指導者とはならない。現在A病院に常勤する救急科専門医のC先生が指導者となる。

例2) D病院の症例を記載した場合、実際に指導してくれたのは救急科専門医のE先生だとしてもE先生が異動して現在D病院に勤務していない場合は指導者とはならない。現在D病院に常勤している救急科専門医のF先生が指導者となる。

●第1次審査で救急勤務歴に認められた施設での症例を記載したいが、異動等のため救急科専門医も認証資格者も不在になってしまった。

日本救急医学会事務所までご連絡ください。

●診療実績表（書式第5号）のページ数の確認

診療実績表（書式第5号）のページ数の確認：全12ページです。（両面印刷でも可）

ただし、印刷設定によってページ数が異なる場合があります。その場合は、項目が全て印刷されているかご確認ください。提出されなかったページはエクセルに入力があっても審査の対象とはならないため、印刷されたものだけで審査し、症例が不足すれば不合格となります。

●診療実績表（専門医書式第5号）を指導者ごとに分けて作成しないこと

複数の指導者から押印をもらう場合がありますが、同一紙面に揃えて提出すること

●〇〇項目には具体的にはどのような症例を入力すればいいのか？

〇〇項目に△△（特定の手技や症例）を記載しても大丈夫か？

まず、『救急診療指針』（へるす出版）『標準救急医学』（医学書院）を参考に先生ご自身でご判断ください。そして最終的には、指導者にご確認ください。事務所では回答しておりません。

●一患者の症例について、A項目とC項目の間では重複してもよいのですか？

はい。A項目内、C項目内での重複は不可ですが、A項目に1例、C項目に1例は記載可です。

●書類の不備だけで、不合格となる場合があります

提出締切り後に、症例の日付の修正・差し替え・追加は一切認めておりません。入力ミスであっても修正は認められません。期間外症例および重複症例は削除されます。削除された結果、症例数が不足した場合には不合格となります。第1次（救急勤務歴）審査の結果通知文書に、診療実績対象となる施設および期間を記載してあるので、必ず確認の上、入力すること。

できるだけ多く症例を入力する、書類作成後に症例数を数える、日付を確認する等、基本的な対策をお願いいたします。Ab項目への記載が29例以下で不合格となる申請者が毎年何名かおります。